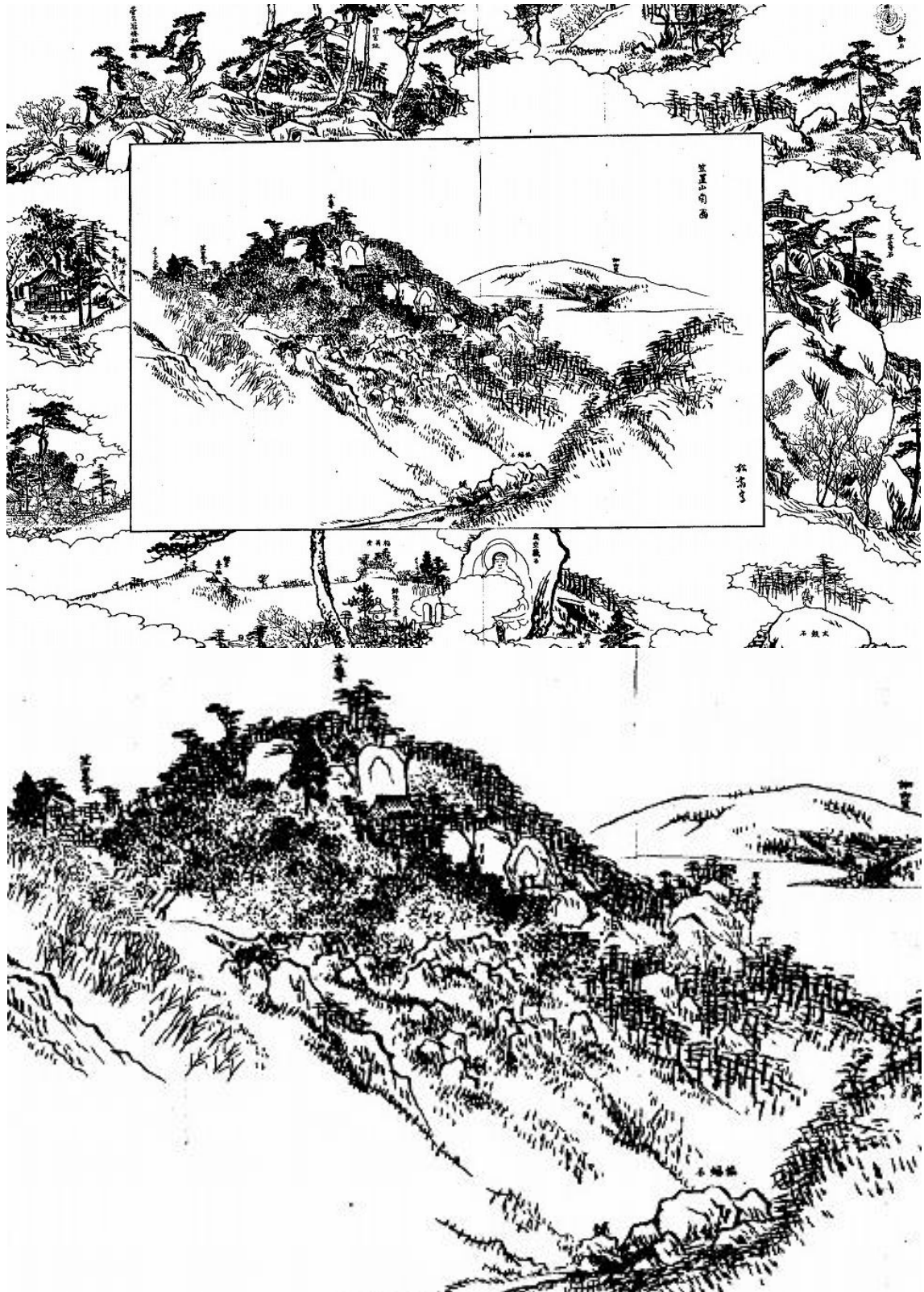


笠置山南面図（東山から見た東面） 明治 27 年大倉丈英発行



中心部拡大 山頂部分に弥勒石。金剛界石、胎蔵界石、虚空蔵石と続き観音谷に落ち込む。当時は山に木が少なく巨岩が数多く露出している。山頂部分には笠置寺と多聞天堂。



同じ方向から見た現在の東面。風致保安林のため明治時代とは異なって鬱蒼と茂った常緑樹が弥勒石を除きすべての巨石を隠している。



手前上人墓から観音谷越しにみる笠置山稜線上の稲荷社と盤若台。木の茂った今では展望が効かず見られない。

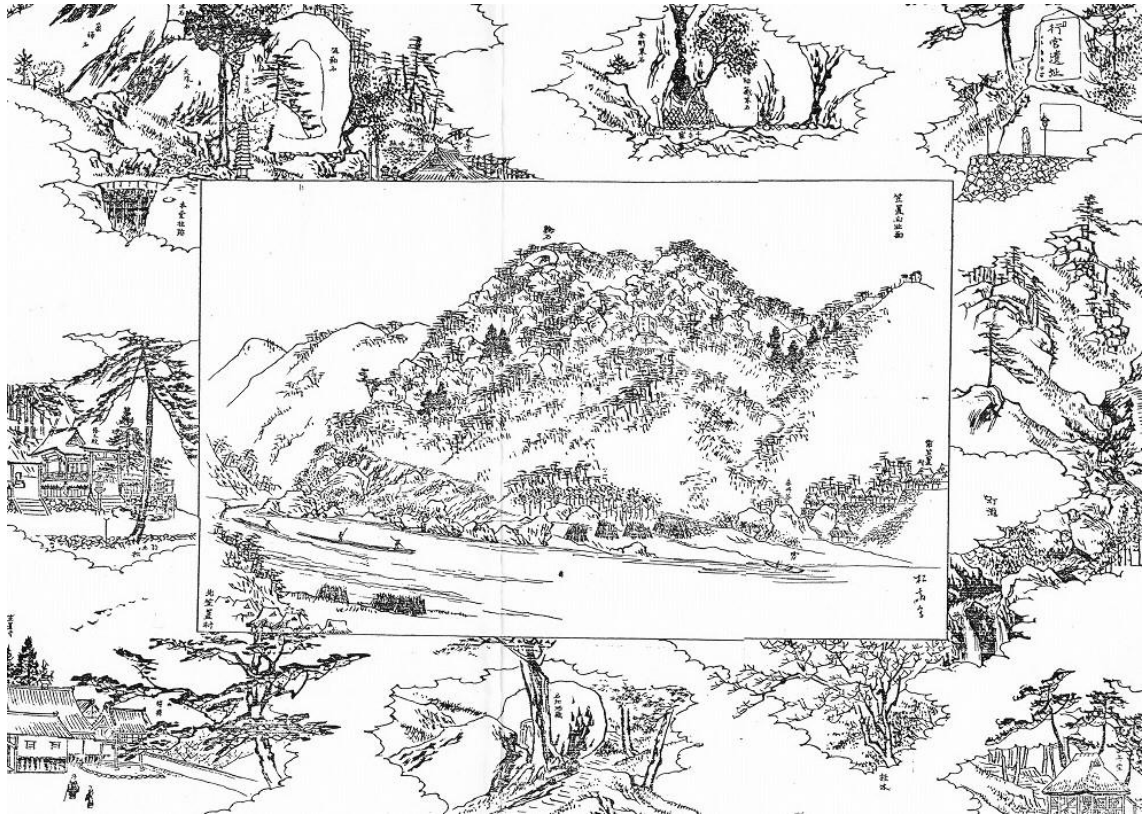


毘沙門堂。左は文化元年（1804年）に完成した毘沙門堂、右はそれ以前から存在した多聞院。



平等石。現在平等石と言われるのは松の生えている上三分之一。反対側にはその下に2層の巨岩が重なっており、合わせて3層の巨岩を不動岩という、笠置山で最も高さのある岩といわれる。

笠置山北面図（東山から見た東面） 明治 27 年大倉丈英発行



中心部拡大。現在の役場付近の高台からみた北面。こちらも樹木が少なく巨岩が現れている。



同じ方向から見た現在の北面、やはり巨岩は樹木に隠れている。建物は温泉旅館（休業中）。旅館のすぐ南側を関西本線が通っている。



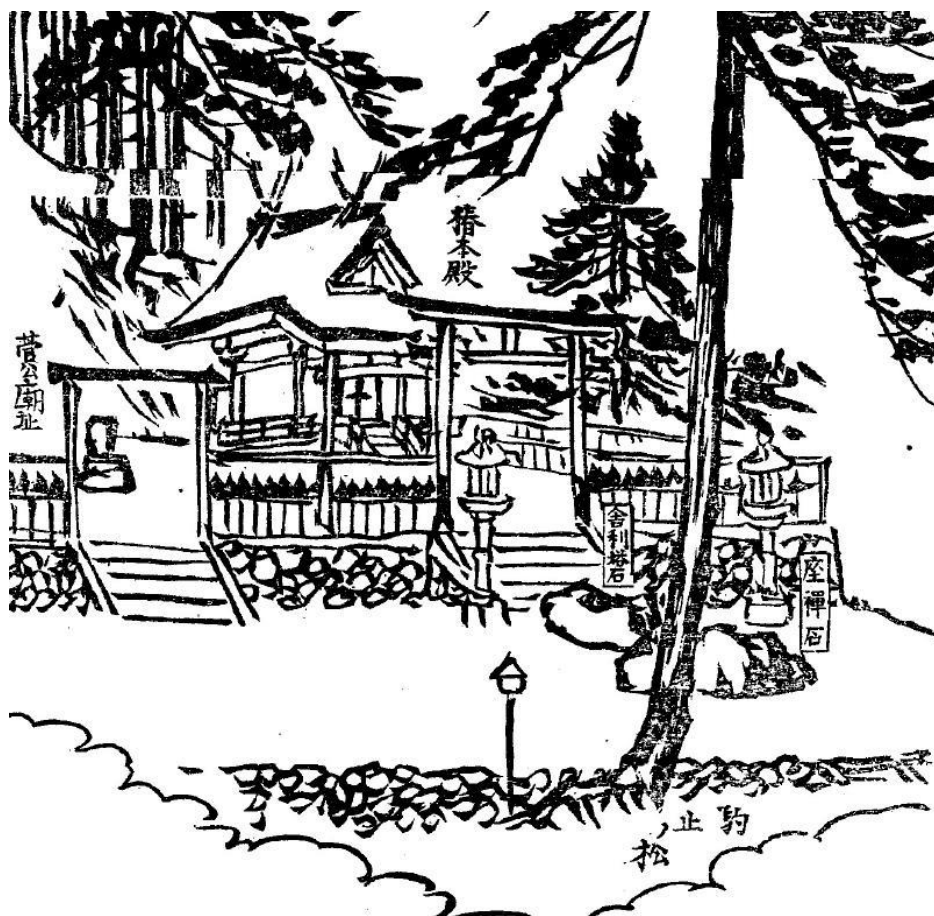
笠置寺庫裡 人物は住職の丈英と弟子の慶尊



本堂前の3つの巨石。笠置石は天智天皇皇子が弥勒像刻彫の際の目印として笠を置いたという伝承の石。本堂横の護摩堂はこの頃にはもう無かった。



景色は明治時代と現在全く変わっていない。さらに云えば鎌倉時代笠置曼荼羅の世界が残されている。



椿本神社 社殿前の駒止の松は今はない。



明治19年に竣工した行宮遺址の巨石の前には当時はガス灯がついていた